

A.2 追加性に関する情報

投資回収年

投資回収年数	
--------	--

年

A.3 排出削減量の算定方法

A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	数値 ※3
ER	排出削減量	tCO2/年	238
EM _{BL}	ベースライン排出量 ※1	tCO2/年	247.7
EM _{PJ}	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2/年	9.1

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。
 ※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。
 ※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

(1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。
 ※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

(2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A.3.1で算定した排出削減量と比較して付随的な排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的な排出活動のモニタリング・算定方法を定めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上とはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

(考え方) ※1 本プロジェクトでは燃料の木質バイオマスはすべて自らの事業所で発生するバーク(樹皮)や端材であるため、運搬にともなう排出量は発生しない。また工場内でのバーク並びに端材の運搬用フォークリフトにて化石燃料を使用しているが、ボイラー設置前も同様に廃棄収集のために運搬作業をしていたため付随的な排出量とならない。炉の燃料投入口の開閉やファンは電気により稼働しているが、影響が低いため、「対象設備に付帯する追加設備の使用」については排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
バイオマス原料の運搬	-	-	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
バイオマス固形燃料処理設備の使用	-	-	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
バイオマス固形燃料の運搬	-	-	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
対象設備に付帯する追加設備の使用	9.1	3.8	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計 ※4	9.1	3.8	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。
 ※2 A.3.1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。
 ※3 方法論で規定された方法から選択すること。
 ※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

A.3.3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1	バイオマス固形燃料（端材・バーク）を活用するため、プロジェクト実施後の主要排出量は 0 tCO2/年である。
----------	--

$$EM_{PJ,M} = 0 \quad (式3)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	0.0

※1 方法論に記載された算定方法のうち、使用する算定方法を明記すること。

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載する。

$$EM_{PJ,S} = EM_{PJ,S,auxiliary} \quad (式4)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の付随的な排出量	tCO2/年	9.1
$EM_{PJ,S,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	9.1

$$EM_{PJ,S,auxiliary} = EL_{PJ,auxiliary} \times CEF_{electricity,t} + F_{PJ,auxiliary} \times HVP_{PJ,auxiliary} \times CEF_{PJ,auxiliary} \quad (式9)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	9.1
$EL_{PJ,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量	kWh/年	16,009
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	0.00057

A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の熱源設備による生成熱量を、プロジェクト実施後の熱源設備からではなく、ベースラインの熱源設備から得る場合に想定されるCO2排出量とする。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$Q_{BL,heat,output} = Q_{PJ,heat,output} = FL_{PJ,heat} \times \Delta H_{PJ,heat} \times 10^{-6} \quad (\text{式b-4})$$

記号	定義	単位	想定値
$Q_{BL,heat,output}$	ベースラインの対象設備における生成熱量	GJ/年	3,779.0
$Q_{PJ,heat,output}$	プロジェクト実施後の対象設備における生成熱量	GJ/年	3,779.0
$FL_{PJ,heat}$	プロジェクト実施後の対象設備で加熱された蒸気の使用量	kg/年	1,462,000
$\Delta H_{PJ,heat}$	プロジェクト実施後の対象設備で加熱された蒸気の加熱前後のエンタルピー差	kJ/kg	2,584.8

A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = Q_{BL,heat,output} \times 100 / \varepsilon_{BL} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式b-5})$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{BL}	ベースラインの主要排出量	tCO2/年	247.7
$EM_{BL,K}$	ベースラインの主要排出量	tCO2/年	247.7
$Q_{BL,heat,output,K}$	ベースラインの対象設備による生成熱量 (=Q _{PJ,heat,output})	GJ/年	3,779.0
$\varepsilon_{BL,K}$	ベースラインの対象設備のエネルギー消費効率(低位)	%	97.3
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0638

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

A. 4.1 モニタリング計画

(1) 活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※ 1	概要	頻度	想定値	根拠	
$FLPJ,heat$	プロジェクト実施後の対象設備で加熱された蒸気の使用量	kg/年	C	流量計より計測した給水量から、ブロー量（週2t）を除いて蒸気量を求める	月	1,462,000	平成25年度の給水量の実績数値より推計	
$\Delta H PJ,heat$	プロジェクト実施後の対象設備で加熱された蒸気の加熱前後のエンタルピー差	kJ/kg	C	制御している圧力、給水配管経路に変更がないか確認する。	年	2,584.8	ボイラー運転時のゲージ圧0.4MPa、給水温度時の温度39℃を想定	

(2) 係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※ 1	概要	頻度	想定値	根拠	
ε_{BL}	ベースラインの対象設備のエネルギー消費効率	%	II	カタログ値を使用する (三浦工業株式会社、株式会社IHI、株式会社日本サーモエナジー)	-	97.3	カタログ資料	低位発熱量基準
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	III	デフォルト値を使用する	-	0.00057	デフォルト値	全電源2013 年度
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	III	デフォルト値(LPG)を使用する	-	0.0638	デフォルト値	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかの方法を選択すること。
 分類Ⅰ（実測）を用いる場合には、A. 4. 4において実測方法の説明を行うこと。
 分類Ⅱ（第三者提供値）を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

A. 4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類B (計量器)を使用する場合の計量器について説明すること。

(1) 計量器の概要

①特定計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限

②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明

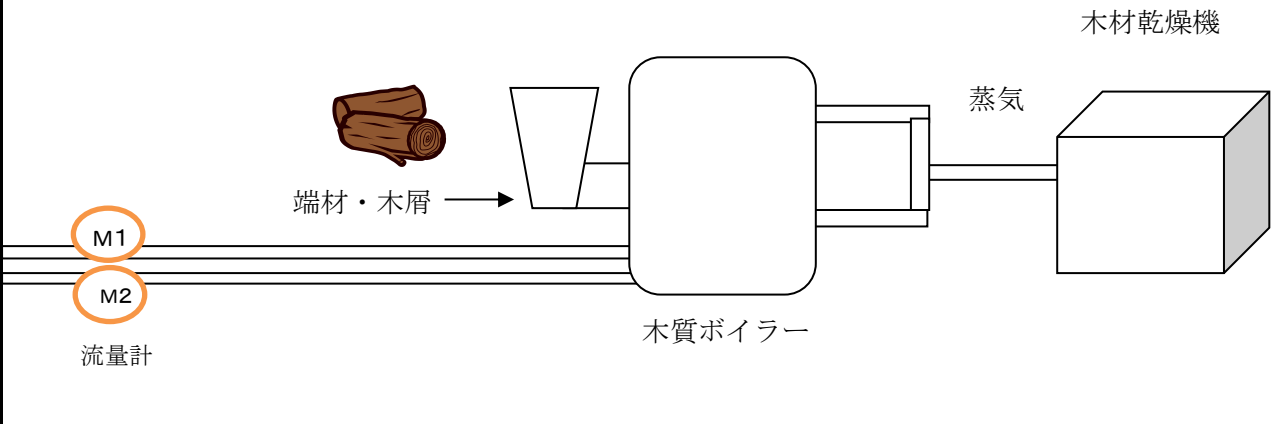
※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

(2) モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。

A. 4.3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	①プロジェクト実施後の対象設備で加熱された蒸気の使用量 ②プロジェクト実施後の対象設備で加熱された蒸気の加熱前後のエンタルピー差
<p>(推定・概算方法)</p> <p>蒸気量については、特定計量器である流量計から給水量を計測し、排水されるブロー水を保守的に算定して求めることで、モニタリングの分類Cとして保守的に算定する。</p> <p>①プロジェクト実施後の対象設備で加熱された蒸気の使用量(kg/年)</p> <p>= 給水量 - ブロー量 = 蒸気量</p> <p><ブロー量の考え方></p> <p>ブロー量は水がま1t×2台を毎週1回清掃時するときに廃棄する量のため、最大である週2tをブロー量として計算する。</p> <p>※通常ブロー量は水がまいっぱいになることはないため、週2tブロー量として設定することで保守的となる。</p> <p>給水量 1558t ブロー量 2t× 4週 × 12か月 = 96t 蒸気量 1558t - 96t = 1462t</p> <p>② プロジェクト実施後の対象設備で加熱された蒸気の加熱前後のエンタルピー差(kJ/kg)</p> <p>=飽和蒸気の比エンタルピー - (ボイラーへの給水熱量)</p> <p><飽和蒸気の比エンタルピー></p> <p>ボイラーの圧力は制御盤にて0.4~0.8MPaに設定してあるため、保守的に0.4MPa。 ゲージ圧0.4MPa時の絶対圧0.5MPaでの比エンタルピーは2,748.1kJ/kg</p> <p><ボイラーへの給水熱量></p> <p>本プロジェクトは井水から給水しており、給水タンク内の温度は外気温より高くないと考えられる。□名古屋市（愛知県）の2014年度の最高気温 38.2℃であった。</p> <p>年間を通じて、給水タンクの平均温度は38.2℃より高くなることはないとかんがえられるため、39℃を給水温度とすることは保守的である。</p> <p>1×39℃×4.1868 = 163.3kJ よって 2,748.1 - 163.3 = 2,584.8 kJ/kg</p> <p>(モニタリングポイント)</p> <p>①プロジェクト実施後の対象設備で加熱された蒸気の使用量(kg/年)</p> 	

A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類A～分類C)に準じた説明を

モニタリング項目	